

# アメニティの機関紙

18号

2021年1月31日発行

発行 日本生理人類学会 生理人類士認定委員会

編集 泉明宏（武蔵野大学）

## 【巻頭言】 感染症とオンライン学習

泉明宏（武蔵野大学）

新型コロナウイルスの感染拡大が継続しています。昨年の2月頃には、大学学科の卒業パーティーを実施するかどうかを学生と相談していましたが、当時の雰囲気として、ここまでの危機的状態になるという認識は共有されていませんでした。外出時のマスクの着用が当たり前となり、新規感染者数が毎日のように報道され、首都圏をはじめとしたいくつかの地域で再度の緊急事態宣言が出されている現在となつては、1年前の日常生活がとても遠いものを感じられます。

感染拡大への対応として、教育機関ではICTを用いたオンライン授業が急速に普及しました。今年度の生理人類士認定試験も、急遽オンラインでの講義と課題の提出という形での実施となりました。まずは厄災をテクノロジーによって乗り越えるということですが、それだけではなく、学びが効率的で学修者本位のものになることも期待されるところです。資料をオンデマンド配信すれば、履修者は自分の好きな時間に何度でも閲覧できます。実際に、オンライン授業の方が対面授業よりも履修者の授業理解度が高いように感じることもしばしばあります。

一方で、大学では学生からの対面授業実施の要望が繰り返し聞かれます。効率性の高いオンライン授業には無い、対面授業が持つ特徴に目を向けざるを得ません。仲間との出会い、そして、毎日のように顔を合わせて、同じ目標に向かって時に励まし合い、競い合うということは、それ自体が大学生活での貴重な経験です。授業の前後に話したり、一緒に食事したりすることは、授業の内容以上に重要な要素かもしれません。現在のオンライン授業の良さを活かしながら、多様な人々が気持ちよく学んでいくことができるための工夫はこれからの課題だと思います。新たに生理人類士として認定された皆さん、一緒に考えてみませんか。

## 【生理人類士の声】

生理人類学を学んで振り返ってみると

岩田由美子（武蔵野大学通信教育部）

私は、イギリスに留学をしていた頃、ステイ先のホストファミリーに毎日 comfortable（快適）かと問われました。イギリスの家は、庭に面したキッチンやコンサバトリーが大変素晴らしく、庭には野生動物が訪れ、人々は夕方から庭仕事に精を出します。イギリスは、日本のように速さ、正確さ、効率を求めない、快適さ（心地よさ）を重視した文化であったと思います。当時の私は、イギリスの心地よさに感激しました。とは言え、日本人の私はイギリスで不便をしたことも多々あり、外から見た日本には、改めて快適だと思ふことが沢山あったのです。私の歴史の中でも快適性の認識に変化があったわけですが、人は長い歴史の中で、生活を快適にする工夫をして環境適応をしてきました。現在、新型コロナウイルスの事で、生活様式を変革し適応しようとしている瞬間であります。生理人類学を学んだことで得た多角的な視点から、自分なりのより良い選択をしていきたいと思っています。

## 形として残る「学び」

上運天彩乃（武蔵野大学人間科学部）

資格というのは自分自身はその資格について学び、それを修めた証拠になると聞いたことがあります。大学四年という学生生活最後の年に、私は自身の学んだ証拠を残したいという一心でこの試験を受けました。また、最も興味深かった授業が「生理人類学」だったこともあり、自分の好きな分野を学んだことを「資格」として形に残せることに魅力を感じました。例年とは異なり、オンライン講義を受けた上でのレポート提出という形ではありましたが、その特徴を活かして理解できるまで解説を聞き直すことができ、むしろ理解を深めやすい印象でした。

資格の講義を経て、最も記憶に残っているのは自身の普段の姿勢についてです。猫背が身体に悪いことは理解していましたが、この講義を受けてから猫背が身体に悪いメカニズムを学び、以前より意識して日々を過ごしています。この講義で学んだ知識を今後の人生をより豊かにするために活用していきたいです。

### 人間を探求する上で

日下部公美（武蔵野大学人間科学部）

私が生理人類士の資格を取得しようと思ったのは、人間について様々な観点から探求したいという気持ちからでした。現在、私は心理学について学んでおり、人間を探求していくためには、一つの視点のみで理解しようとするのは困難であるということを感じます。この資格を通し、人類の歴史、身体の構造、生活環境など、様々なアプローチから人間を捉えることを学びました。ただ、この資格を取得する最も大きな意義は、学んだ知識を生かし、自身でデザインしていくことにあります。この姿勢を今後、様々なことを学ぶ際にも生かしたいです。

現在、私たちのライフスタイルは日々変化することを求められています。この変化に適応していくために、私たちの生活を快適にしていくためにはどうしたら良いか、生理人類学から学んだ多面的な視点から考えていきたいと思っています。

### 日常生活に活かせる資格への挑戦

橋本明奈（武蔵野大学人間科学部）

私が生理人類士2級を受験した理由は友人に誘われたからでした。また、新型コロナウイルス感染症拡大によって大学の講義がオンラインになり、時間に余裕が生まれたことから、空いた時間を有効に使いたいと思ったからです。例年とは異なった形式での受験となり不安もありましたが、オンデマンド式の講義は自分のペースで視聴できることや、繰り返し視聴できることが利点だったのではないかと思います。

今回、講義の中で、印象に残っているのは睡眠に

ついてです。睡眠の種類や各国の睡眠時間の差、環境が睡眠に与える影響など、睡眠の必要性を学ぶことができました。また、私自身の睡眠の質について見つめ直す良い機会になりました。

生理人類士を受験したことは、自分の視野を広げる良い機会になったのではないかと思います。今後、より快適な生活を送るために学んだことを活かしていきたいです。

### 快適空間の構築

佐藤杏美（実践女子大学生生活科学部）

絶対的な快適空間とは、「誰もが安心してリラックスできる空間」であると思う。近年、環境問題が深刻化する一方で、テクノロジーの急速な発展により環境や社会はますます高度化しつつある。そうした状況にあって、上記の絶対的な快適空間を実現するには、人類とこれを取り巻く諸要素について理解を深めることが重要とされるであろう。

本学科には生理人類学に関連する科目が二つある。私は「生理人類学」において人類の進化と環境との関わりについて学習した。また「生理人類学実験」において生体の形状や生理的・心理的機能について数値化する手法を学んだ。そして今回の資格試験では、多くの先生方による遠隔型の講義を受け、理解が深まったと思う。私は最終学年を迎える。そこで卒業論文では、「人類の本質に基づく快適空間の実現」を念頭にテーマを定め、研究を進める予定である。

### 生活に活かす

永井里奈（金城学院大学生生活環境学部）

私は衣食住、特に住まいに興味を持ち環境デザイン学科を選びました。学校の授業を受けていく中でただ設計をするだけでなく人が住むことを考えて、より良い住宅を造るために何をもって快適とするかをまず考えるべきだと考えました。

試験を受講していく中で、授業で教わった範囲と似た内容があり、内容をより詳しく理解することが出来ました。自分が生活していく上で参考になることが多

くありました。睡眠の講義では自分の睡眠を見直し、家族や友人にも良い睡眠を得られるよう学んだ内容を伝えました。試験を受けるという堅苦しいものではなく自分の生活の質を向上させる為の知識を得るという気持ちで楽しく受講することが出来ました。この試験で学んだことを活かし、より良い住宅を設計出来るように頑張りたいです。

### 今後へ向けての学び

嶋田有紗（群馬大学教育学部）

私は教育学部の家政専攻に在籍しています。よりよい生活の実現に向けた衣食住などについて学ぶ身として、ヒトの生理機能や生活と環境の関わりについて深く学びたいと思い、生理人類士資格試験を受験いたしました。計10回にわたる講義で、快適で安全に暮らすための知識を得たり、日々変化する社会に対応するための行動について考えたりすることで、これまでの生活を振り返ることができました。コロナ禍であたりまえの生活がままならない中、今後の生活へ意識を向けることができたことも大きな学びであったと思います。

また、今回は遠隔的に講義が実施されました。そのため、他大学の先生方の授業を受け、一時間一時間が興味深く、新鮮な気持ちで取り組むことができる貴重な経験となりました。資料の示し方や説明の仕方など、対面ではない授業づくりの観点においても、教員となる私にとりまして大変勉強になりました。ありがとうございました。学びと経験を活かし、健康で豊かな生活を目指して進んでいきたいと思っています。

### 資格を受験してからのこれから

後藤瑞貴（東北文化学園大学建築環境学科）

生理人類学について初めて知ったのは大学2年生の講義でした。最初は名前を聞いただけでは、どのような講義内容なのか分かりませんでした。環境の変化は人の変化に繋がることや生活の中で必要な能力やそれに対応出来る身体の基本的な構造など、大学で建築を学ぶ私にとって、知れば知るほど面白く興味深

い内容でした。

4年生になり就職活動を通して将来を考え始めたとき、生理人類学を活かしたいと思い資格取得を目指しました。

現在はコロナ禍の影響により自宅で過ごす時間が増えたため、快適な室内空間が求められます。今回受験した生理人類士試験の遠隔講義で得た様々な知識は、建築学の分野のみならず、普段の生活の中にも活かし幅広く活用していきたいと思っています。

### 生理人類学士2級を受験して

前田康彦（九州大学大学院芸術工学府）

私は生理人類学をより広く深く知りたいと思い、生理人類学士2級を受験しました。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔講義受講とその後のレポート提出による受験となりました。そのため、様々な大学の先生方の講義を聞き、それを元に再度自分なりに考えをまとめながらレポートを作成することとなり、結果的に自学していく方法では知り得なかった深い内容にも踏み込めたと感じました。また今回、普段教えていただく機会のない大学の先生方の講義を受けることができたことも貴重な経験になりました。内容についても、普段の生活に取り入れたいと思う内容が多くあったり、今まで意識しなかった自分自身や身の回りの環境、設備について気にするようになったりと視野が広がったと感じます。

今後、生理人類学士準1級受験を視野に入れながら、引き続き生理人類学についてより知識を深めていきたいと考えています。

### 【2020年度 生理人類士優秀賞 受賞者】

#### 2級

岩田由美子・上運天彩乃・日下部公美・橋本明奈

（武蔵野大学）、藤田操香（実践女子大学）、

永井里奈（金城学院大学）、嶋田有紗（群馬大学）、

佐藤尚喜（東北文化学園大学）、前田康彦（九州大学）

## 【2020年度 資格認定者】

### 準1級

照井章子（武蔵野大学）

### 2級

石岡菜穂子・吉田幸代・浅田尚弘・田出保之・  
塩島みゆき・尾山一人・下平かほる・新海智子・  
土橋静子・永見数美・岩田由美子・松井英久・  
四之宮修・遠藤紀子・赤沼藍・佐藤亜美・上運天彩乃・  
久永涼葉・石井杏実・井上理菜・大森陽菜・北野優希・  
胡怡然・今田育真・施竣訳・瀬上琴乃・孫菁・  
出川夏生・野口鼓子・原遥香・日下部公美・熊木彩乃・  
山谷萌・渡邊有果子・青山優希・阿久津奈那・  
今井恵美・小田島萌・北原あみ・佐藤遥・白石真唯・  
橋本明奈・森永真優奈・矢田まりあ・和田菜々子・  
倉品風花・田中摩耶・近野友亮・関根妃奈乃・  
川村優陽・満岡文雄・矢部諒音（武蔵野大学）、  
上地桃子・大崎舞・荻野春菜・樫尾月香・工藤きら梨・  
佐藤杏美・シェク エリナシャムス麗花・藤田操香・  
森田玲那（実践女子大学）、安藤明音・勅使川原紗夏・  
永井里奈・野末梨紗・野々山茉莉・日置友梨菜・  
本多優芽（金城学院大学）、佐藤詩織・嶋田有紗・  
寺山優香（群馬大学）、伊藤優・大窪俊樹・後藤優太・  
佐藤尚喜・鹿野征杜・下村由孝・永澤春千翔・  
沼澤飛翔・播磨屋大輝・海老直翔・太田喜大・  
大滝彩乃・後藤瑞貴（東北文化学園大学）、前田康彦  
（九州大学）

## 【2020年度生理人類士準1級・2級の講義内容】

- 第1週：学会と資格の説明、地球の歴史と生命の進化  
（山崎和彦）
- 第2週：人類の進化～霊長類から現生人類まで～  
（泉明宏）
- 第3週：聴覚、音環境（川村広則）
- 第4週：温熱環境学概論（前田亜紀子）
- 第5週：ヒトと住、都市環境（立川公子）
- 第6週：睡眠、生活リズム、寝具、寝室（水野一枝）
- 第7週：悪い姿勢が体を壊す～姿勢・動作の生理人類学～（岡田明）
- 第8週：体温調節上の衣服の役割、衣服気候と着心地、季節と衣服（平林由果）
- 第9週：心理評価、統計の基礎（泉明宏）
- 第10週：人類と水、空調（川村広則）

## 【2021年度資格認定について】

### 準1級・2級

受験申込：2021年9月20日（月）～10月4日（月）  
実施方法：オンライン（オンデマンド配信）の講義をおこなう。毎週届く教材について学習し、レポートを提出する。

実施期間：10～12月の連続する10週を予定。

### 1級

受験申込：随時受付。

試験日程：相談の上決定。

受験資格等については、日本生理人類学会ホームページ（<http://jspa.net/>）の「学術活動」→「資格認定」をご覧ください。

### 日本生理人類学会資格事務局

所在地：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

電話：03-6824-9369 FAX：03-5227-8631 メール：jspa-post@bunken.co.jp